

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	札幌市立南白石小学校 第3学年 21名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間、道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	・かつて札幌でオリンピックが開かれたことを知り、オリンピック・パラリンピックについての関心を高める。 ・目標をもって夢を実現した阿部雅司さんの講話を通して、強く意志をもつことの大切さに気付くことができるようにする。
5 取組内容	○指導計画【15時間扱い（道徳2時間、総合13時間）】 ＜オリンピックミュージアム現地学習＞（道徳1時間、総合2時間） ・金メダリスト、阿部雅司さんの講演を聴講する。（道徳） ・館内展示の見学、冬季スポーツの模擬体験をする。（総合） ・ジャンプ台の様子を見学する。（総合） ＜授業（現地学習の事後学習として）＞（道徳1時間、総合11時間） ・オリンピック・パラリンピックについて、 課題を設定→調査活動、ポスター作り→発表（総合） ・『ゆめに向かって「やめねえで、いがった」』（道徳） オリンピックミュージアムでお話を聞いた阿部雅司さんの著書「やめねえで、いがった」の資料を使って、道徳の授業を実施。 ○取組の様子（オリンピックミュージアム現地学習） 元ノルディック複合の選手でリレハンメルオリンピック金メダリストの阿部雅司さんの講演を聞きました。オリンピックやパラリンピックで大事にしている精神や、自身のオリンピック体験について、教えてくださいました。子どもたちは、本物の金メダルにも触らせてもらい、とても貴重な経験をすることができました。 

	講演後、阿部さんに、館内を案内してもらいました。オリンピック・パラリンピックの歴史や用具、開催地、メダルのことに関する展示を見て、興味・関心を高めることができました。 競技体験コーナーでは、スキージャンプのテイクオフやボブスレー体験などで、子どもはたくさんの冬季スポーツに親しんでいました。「実際にやってみたい。」という声もありました。 リフトに乗り、大倉山ジャンプ台の上へ行きました。ジャンプの選手がこんなに高い所から滑っていることに、子どもは驚きました。また、山の上から札幌市の中心部を見渡し、社会で学習した内容について、確認することができました。
6 主な成果	・オリンピック選手から、話を聞くことができ、子どものオリンピック・パラリンピックへの興味、関心は高まった。また、夢に向かって粘り強く努力を続けることの素晴らしさについて理解することができた。 ・オリンピックミュージアムでの体験をもとに、もっと調べてみたいことを課題として設定し、調べ学習を行い、まとめたことを発表し合うことができた。
7 実践において工夫した点	・「オリンピック、パラリンピック副読本」を積極的に活用し、ミュージアムでの体験に重ねて知識・理解を深めていけるようにした。 ・後日、講師を務めてくださった阿部雅司さんへ、子どもが手紙を書いて送った。阿部さんからの返信をいただき、さらに子どもたちの興味・関心が高まった。
8 主な課題等	・館内の展示を見て、気付いた事などをメモするような、ゆっくりとした時間を確保することは難しかった。学習の内容に応じて、ピンポイントで展示を見るように計画した方がよかったかもしれない。
9 今後の取組について	・年間のカリキュラムに、オリンピック・パラリンピック教育の要素を取り入れていく。総合的な学習の時間、道徳、社会、体育などで、実践を重ねていく。